

成果情報の記載方法について（府県用）

（注）農研機構から提出する場合は所から配付された様式に従うこと

1. 成果情報提出の要件について

農研機構から提出される成果情報については論文化・特許出願後等の成果に限ると要件が課されていますが、府県から提出される成果情報にはこのような要件は課されていません。従って、論文化等されていない成果を提出される場合には、下記の【その他】発表論文等について「なし」と記載してください。

2. 書き方

- ・ Word（拡張子「.docx」）を使用
- ・ 文章は原則として現在形で記述
- ・ 利用者の立場に立ち、web での公開を前提として、一般（他分野）の人にも理解できるよう平易な文章で記述

3. 記載方法・様式（詳しくは、次項の記載例を参照）

- ・ [代表連絡先] は主担当者が所属する研究所の窓口となる部署のメールアドレス、もしくは担当部署または研究所の電話番号。
- ・ 罫線は使用不可。
- ・ マニュアルや論文等の URL を記載する場合、URL に誤りがないか確認。
- ・ 1 課題あたり A4 判、縦置き、3 ページ以内。上下・左右余白 2.5cm、文字数 45、行数 45 は変更不可。

4. ファイルサイズ

成果情報の事前検討を行う際に、ファイルサイズが大きいことにより関係機関にメール送付できないことがあるため、ファイル全体のサイズを2MB 以下になるように調整する。

5. 普及成果情報の記載内容

成果のユーザーが普及成果情報を見た際に、成果の「普及性」、「有効性」が明確に分かるよう具体的に示す。普及性については、[普及のための参考情報]に、普及予定面積・普及台数・普及割合等の具体的数値を示し、有効性については[成果の内容・特徴]等に、従来技術に比べ、生産コストを○%削減できる、収量が○%増加する、○時間/10a・年の労働時間を削減できる、収益計算等の具体的な記載を心がける。

6. その他

Excel 等の図表をそのまま貼り付けた場合、正しく表示されないことが多いので、他のパソコンで必ず表示を確認してから提出する。

※黒字は変更しない。水色部分を記載。

[成果情報名]1 行以内、サブタイトル不可、MS Pゴシック、10.5 ポイント

[要約]。

3 行以内、情報の内容を簡潔かつ平易に記載、MS 明朝、10.5 ポイント

[キーワード] △△△△、△△△△ 1 行以内、5 つ以下

[担当] ○○研究部、□□研究室、△△チーム

主たる実施部署である研究部、研究チーム等は略さず記載。

[代表連絡先] *****@****. ** または 電話 029-838-****

担当者が所属する研究所の窓口となる部署のメールアドレス、

もしくは担当部署または研究所の電話番号を記載。

※ [成果情報名] ～ [分類] 記載事項中
は改行コードを使用しない。

[研究所名] □□□□研究所、共同研究機関がある場合は続けて記載。

主に担当した研究所名は略さずに記載。

[分類] 普及成果情報 or 研究成果情報

「成果情報の分類について」参照。「普及成果情報」または「研究成果情報」のいずれかを選択。

[分類] と [背景・ねらい] の間は 1 行空ける。

[背景・ねらい]

.....
を目指したものである。.....
を開発し、効果を明らかにする。

< 1 行空ける >

[成果の内容・特徴]

1.は.....である。
2.は.....により.....となる。
3. ○○によって、○○○が
○○される (図 1)。
4. ○○○○より○○○○を示す (表 1)。
5.

- ・ 1 課題あたり A4 判版縦置き 2 頁程度、3 頁以内。
- ・ 上下・左右余白 2.5cm。文字数 45、行数 45。
- ・ 文章は原則として現在形。
- ・ 括弧は全角「()」、全角句読点「、」「。」を使う。
- ・ 本文中改行する場所以外では、改行コードを挿入しない。
- ・ 本文中体裁を整える必要がある場合には、インデントの設定により行う (段落中にスペース・タブ・改行を入れない)。
- ・ 利用者の立場に立って、平易な記述を心がける。
- ・ 文字の大きさは 10.5 ポイント、フォントは MS 明朝 (成果情報名は MS P ゴシック)。
- ・ 英数字は半角 (成果の内容等の項目番号は全角)。
- ・ 品種名は「」書き。
- ・ 生物の学名は初出時に属名を略さずに記載。
- ・ 年は、元号ではなく西暦で記載。
- ・ 使用不可：半角カナ文字、機種依存文字 (丸囲み数字、ローマ数字、韃、^リなど) 外字

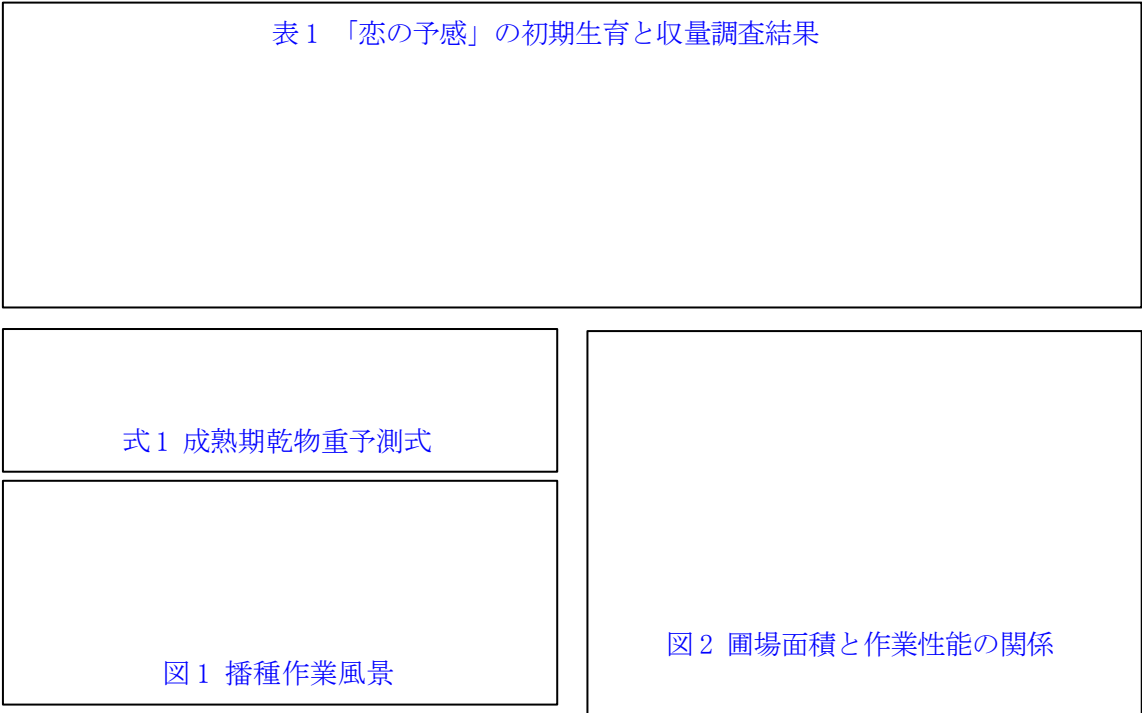
< 1 行空ける >

[普及のための参考情報] (普及成果情報の場合)

[成果の活用面・留意点] (研究成果情報の場合)

1.
2.
3.

[**具体的データ**]図表は4つ以内。解像度が高く鮮明なもの。「表1」「図1」等につけて全角スペース1文字分を入れタイトルを記載（図表のフォントや文字サイズ自由）。タイトルは原則センタリング。



(佐藤太郎、高橋花子)

（本成果情報の執筆責任者を明確にするために、著者を明示。都道府県で法人著作の場合は機関名を記載。複数名可。姓と名の間にスペースを入れない。右揃え、直ぐ下の行から「その他」以降を記載）

[**その他**]

予算区分：県単、委託プロ（略称〇〇）、競争的資金（略称〇〇）等

研究期間：202〇～2025 年度 研究を行った期間を記載する（予算の期間ではない）。

単年度事業の場合、該当年度だけ記載（例）研究期間：2017 年度

研究担当者：佐藤太郎、高橋花子、伊藤三平（〇〇大農）

研究に携わった研究者全員を、名字と名前の間にスペースは入れないで記載。

氏名は「、」（全角読点）で区切る。

研究担当者が多く、2行以上にわたる場合、左寄せとし、インデントの設定はなし。

他法人・大学等の研究者については名前の後ろに（カッコ）付きで所属機関の略称を記入（複数の者が同じ所属の場合も省略しない）。

発表論文等：・記載する場合：記載様式は、次頁の「参考 発表論文等の書き方」を参照し、箇条書きで主要な物を4件以内記載。

・※該当がない場合は、なしと記載。

1) 佐藤ら（2020）・・・・・・

2) 高橋（2022）・・・・・・

参考 発表論文等の書き方

○フォントは MS 明朝（英数字も同じ）、10.5 ポイント。英字、数字、記号(括弧、コロン、ピリオド等)、スペースは半角。

※以下、半角スペースは「」、全角スペースは「」を使って解説

発表論文等の数について（主要なものを4つまで記載）

○発表論文等が1つの場合は、「発表論文等：」の後に、番号を付けずに、コロンの後に続けて記載。[発表論文等：佐藤、高橋\(2013\)農研学雑誌、5\(2\):123-130](#)

○発表論文等が2つ以上の場合、「発表論文等：」の後を改行し、番号を付けて、スペースを入れずに記載

発表論文等：

- 1) [佐藤、高橋\(2013\)農研学雑誌、5\(2\):123-130](#)
- 2) [Sato T. and Ito S. \(2012\) J. Kikou Sci. 22\(1\):56-61](#)
- 3) [Takahashi H. et al. \(2011\) J. Kikou Res. 53\(3\):125-132](#)

1) 英語論文の場合

・著者名

日本人の場合 「名字」 + 「」 + 「名前のイニシャル（大文字）」 + 「`.`」ピリオド

・著者が二人の場合は著者名を「and」で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「et al.」で記載。

・ボールド、イタリック、下線などの修飾は使わない。

・「著者名」 + 「」 + 「(西暦)」 + 「」 + 「誌名略称」 + 「」 + 「巻数(号数)」 + 「`:`」(コロン・半角) + 「開始ページ」 + 「`-`」(ハイフン・半角) + 「終了ページ」

注：最後にピリオドは付けない

発表論文等：

- 1) [Sato T. and Ito S. \(2012\) J. Kikou Sci. 22\(1\):56-61](#)
- 2) [Takahashi H. et al. \(2011\) J. Kikou Res. 53\(3\):125-132](#)
- (上記書式に当てはまらない例)
- 3) [Nishio M. and Sato M. \(2014\) PLoS ONE 9\(1\): e85792. doi:10.1371/journal.pone.0085792](#)
- 4) [Hirao Y. et al. \(2013\) Biol. Reprod. 89\(3\): 57, 1-11](#)

・発表論文等の詳細が決定していない場合

「著者名」 + 「」 + 「(西暦)」 + 「」 + 「誌名略称」 + 「」 + 「投稿中 受理 印刷中」（審査状況を記す）

- 1) [Sato T. and Ito S. \(2014\) J. Kikou Sci. 投稿中](#)
- 1) [Sato T. and Ito S. \(2014\) J. Kikou Sci. 受理](#)
- 1) [Sato T. and Ito S. \(2014\) J. Kikou Sci. 印刷中](#)

2) 和文論文の場合

・著者名

漢字表記ができる人の場合 「名字（漢字）」

漢字表記ができない人の場合 「名字（カタカナ）」

・著者が二人の場合は著者名を「、」（読点・全角）で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」で記載。

・「著者名」 + 「(西暦)」 + 「誌名略称」 + 「、」（読点・全角） + 「巻数(号数)」 + 「:」（コロン・半角）

＋「開始ページ」＋「-」（ハイフン・半角）＋「終了ページ」

注：スペースは、半角、全角ともに、どこにも入らない

発表論文等：

1) 佐藤、高橋(2013)農研学雑誌、5(2):123-130

2) 伊藤ら(2013)日作紀、82(2):135-140

・発表論文等の詳細が決定していない場合

「著者名」＋「(西暦)」＋「誌名略称」＋「、」（読点・全角）＋「投稿中 受理 印刷中」（審査状況を記す）

1) 佐藤、高橋(2014)農研学雑誌、投稿中

1) 佐藤、高橋(2014)農研学雑誌、受理

1) 佐藤、高橋(2014)農研学雑誌、印刷中

3) 和文図書の場合

・「著者名」＋「(西暦)」＋「章の見出し」＋「_」＋「書名」＋「_」＋「pp.」＋「開始ページ」

＋「-」（ハイフン・半角）＋「終了ページ」＋「_」＋「発行所」＋「、」（読点・全角）＋「_」＋「発行地」

注：編集者名は入れなくてもよい

発表論文等：

1) 永田(2008)誕生 遺伝暗号を読み解く 「たんぱく質の一生：生命活動の舞台裏」 pp. 35-56 岩波書店、東京

2) 松森(2005)地理情報システムを用いた窒素負荷予測モデル 「続・環境負荷を予測する」 pp. 60-79 博友社、東京

4) 特許の場合

・著者が二人の場合は著者名を「、」（読点・全角）で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」で記載。

・「著者名」＋「「特許名（省略しない）」」＋特許番号＋「(公開日または出願日)」

発表論文等：

1) 北川ら「穿孔成形作業機および穿孔成形方法」特許第 6021072 号(2016 年10 月14 日)

2) 佐藤ら「効率的な研究推進方法」特開 2013-123456(2013 年10 月12 日)

3) 伊藤「ガラス温室管理ロボット」特願 2014-345678(2014 年5 月15 日)

注：特許が公開されている場合は、公開情報のみ記載（出願の内容は不要）。

5) 品種の場合

・著者が二人の場合は著者名を「、」（読点・全角）で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」で記載。

・「著者名」＋「「品種名（省略しない）」」＋出願番号＋「(公開日または出願日)」

発表論文等：

1) 伊藤、高田「〇〇〇〇」品種登録第 12345 号(2014 年5 月15 日)

2) 佐藤ら「〇〇〇〇」品種登録出願第 12345 号(2014 年10 月12 日)

3) 山田ら「〇〇〇〇」品種登録出願予定(2018 年)

注：品種が登録されている場合は、登録情報のみ記載（出願の内容は不要）。予定でも可。

6) マニュアル、データベース、プログラムの場合

・著者が二人の場合は著者名を「、」（読点・全角）で繋ぎ、三人以上の場合は筆頭著者の後を「ら」

で記載。

・「著者名」＋「(西暦)」＋「(和文マニュアル名)」＋「」＋「URL」＋「」＋「(掲載日)」

注：マニュアルの内容は「普及のための参考情報」や「成果の活用面・留意点」に記載し、URLや公開日等の情報は「発表論文等」に記載

注：農研機構が著作権を持つ場合は、「著者名」を「農研機構」で統一する

注：URL が決定していない場合は、各研究所のマニュアル一覧ページの URL

注：掲載日が決定していない場合は、掲載日を分かる範囲で書く

(2019 年春公開予定)、(2019 年 6 月公開予定)、(2018 年度公開予定)など

発表論文等：

1) 農研機構(2014)「飛ばないナミテントウ利用技術マニュアル(研究成果集付き)」

http://www.naro.affrc.go.jp/warc/original_contents/tech/index.html (2014 年夏公開予定)

2) 農研機構(2014)「高糖分飼料イネ「たちすずか」等に対応した 収穫・調製支援マニュアル」

http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/051777.html
(2014 年 3 月 20 日)

3) 農研機構(2013)「Web 版農業版経営診断サービス-試行版-」

<http://fmrp.dc.affrc.go.jp/programs/> (2013 年 7 月 22 日)

4) 農研機構(2013)「農作物機能性成分データベース」 <http://fcdb.dc.affrc.go.jp/portall/> (2013 年度公開予定)

5) 農研機構(2014)「ソバ春まき栽培マニュアル」

http://www.naro.affrc.go.jp/karc/contents/tec_manu/index.html (2014 年公開予定)

7) その他

・ウェブサイト・ウェブページ

「著者名(あれば)」＋「」＋「「ウェブページの題名」」＋「」＋「ウェブサイトの名称」＋「,」(コンマ・半角)＋「」＋「URL」＋「」＋「(掲載日)」

発表論文等：

1) 東京大学情報基盤センター学術情報リテラシー係編 「情報探索ガイダンス」 GACoS,

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html> (2010 年 2 月 2 日)

2) 農研機構(2020)「経済波及効果・環境影響評価ツール」 <http://kinohyoka.jp> (2020 年 4 月 1 日)

3) 農研機構(2020)「急傾斜草地の作業を無線操作で安全に」

<https://www.youtube.com/watch?v=GeIXqj-5wPk> (2020 年 3 月 20 日)